

## 直入郡久住町石原遺跡採集の遺物

坂本嘉弘

讚岐和夫

はじめに

遺跡は直入郡久住町大字有氏字石原に所在し、昭和42年大分大学により実施された「くじゅう総合学術調査」で、紹介されている。<sup>注1</sup>遺物は土地所有者である大窪伝氏により採集保管されており、出土する畑地は通称「フヨギ」と呼ばれている。このため、大分大学の調査の報告では「フヨギ遺跡」となっている。しかし、昭和49年、大分県教育委員会の実施した分布調査では、遺物の分布がこの畑地だけにとどまらず、広範囲におよぶことが認められたため、小字名をとり「フヨギ遺跡」を含めて、石原遺跡と命名した。この資料は、分布調査の後日、大窪氏の承諾を得て実測したものである。なお、大分大学の

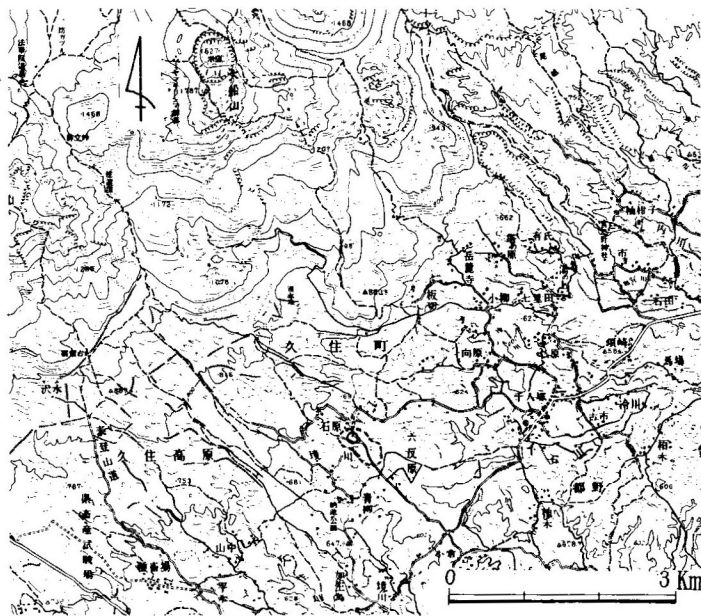
「くじゅう総合学術調査報告書」で渡辺澄夫・佐藤満洋両氏により遺物の一部が紹介されているが、今回の報告は、それを含め、さらに未報告の遺物を加えたものである。

## 一 遺跡の立地と環境

遺跡は大船山（一七八七m）の南麓、久住高原の東端に位置し九重連山から東南に延びる低い尾根上に立地する。この尾根は標高六五〇m前後を測り、大分川と大野川の分水嶺になっている。遺物の分布は「フヨギ」を中心に尾根づたいに広がり、開墾時や耕作の際に多量に出土したという。また周辺には、高冷地にもかかわらず旧石器時代からの多くの遺跡が点在し、昭和四八年に調査されたコウゴ（現久住町総合グラウンド）、<sup>注2</sup>湯ノ上古墳、<sup>注3</sup>三口の銅戈を出土したと伝えられる建宮遺跡等、<sup>注4</sup>現在、周知されている遺跡だけでも三〇ヶ所に以上にのぼる。これらの出土遺物は久住町民センターで保管、展示されている。

## 二 土器

土器は大野川流域で出土する中期の壺形土器、県下全域で



第1図 石原遺跡位置図(○印)

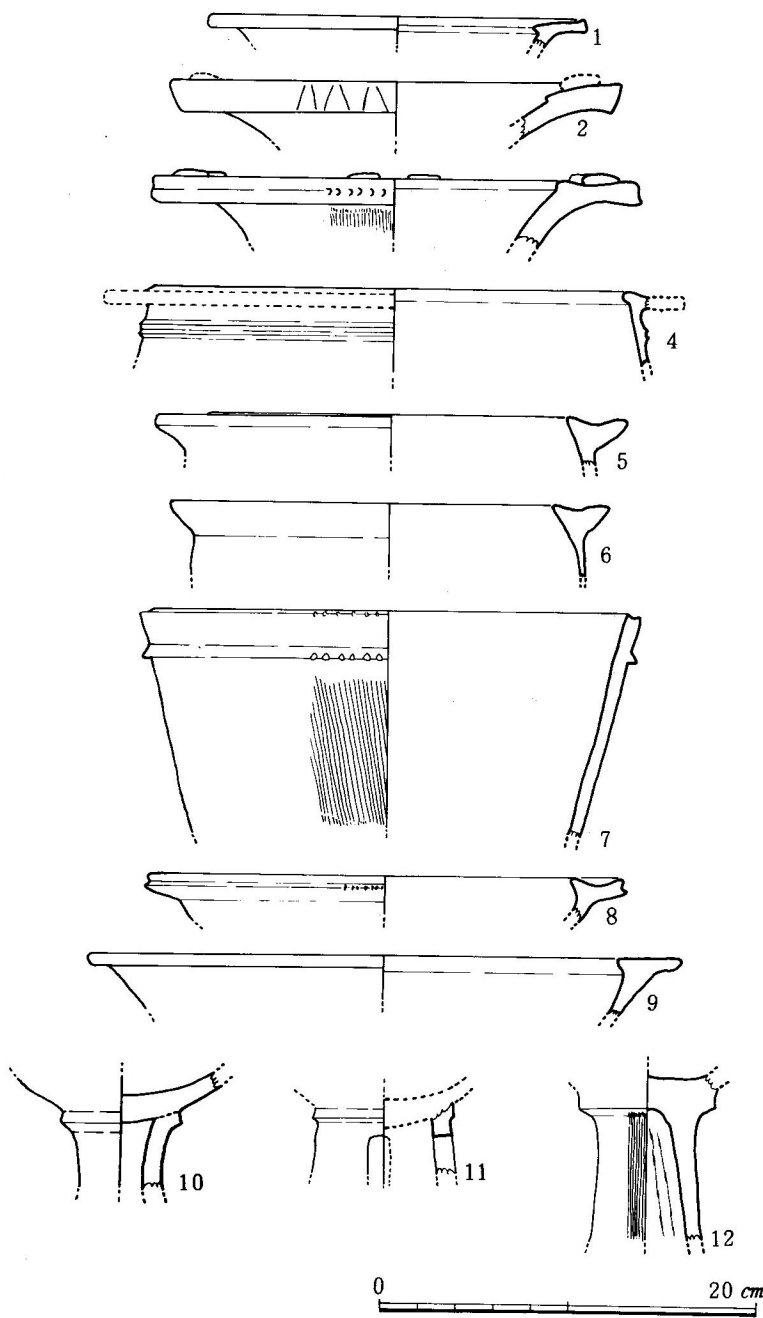
みられる所謂甕形の下城式土器、高坏等がある。また、甕形土器の一部には熊本地方を中心に分布する黒髪式土器と思われるものがある。この土器は大野川流域でも、わずかに出土しており、この地域と熊本地方との関係もうかがわれる。

(一) 中期の土器(第2図1~12)

壺形土器(1~3)は口縁部が鋤先状になるもので、全体的につくりがやぼったい。(2)(3)は口縁平坦部に円形貼付け文を施文しており、(3)は二個単位、(2)は一個単位である。また口縁端部には、(2)は鋸歯状(山形)文、(3)は半載竹管の連続刺突文を施文しており、(2)の口縁平坦部はやや緩慢に内側にカーブしている。(1)は薄手のもので、口縁端部で跳ね上り状となる。

甕形土器(4~7)(7)は下城式土器で刻み目が口縁端部と突帯に同時に施されている。また胴部には刷毛目調整がみられる。(4)は「T」字状口縁で、口縁直下に断面「M」字形の突帯をめぐらしている。(5)(6)は口縁部の上面にくぼみがあり、断面は三角形になる。

高坏形土器(8~12)の(8)(9)は坏部、(10)(11)(12)は脚部である。(9)は鋤先状口縁で上面は平坦で短い。(8)は口縁部の上面にく



第2図 石原遺跡出土土器実測図(1)縮尺 1/2



13



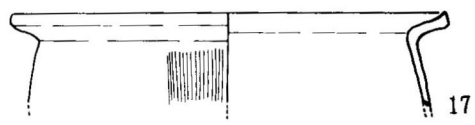
14



15



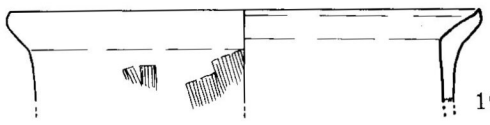
16



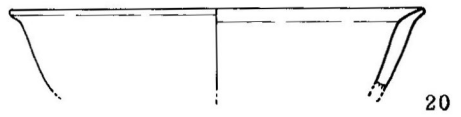
17



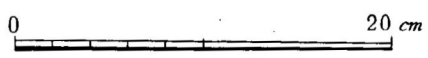
18



19



20



第3図 石原遺跡出土土器実測図(2)縮尺1/2

ほみがあり、口縁端の整形時に一条の沈線が生じ、その下部に細い刻み目がつけられている。脚部は共通して坏部との接合部に一条の突帯をめぐらせている。(10)(12)の器面は入念な縦方向のヘラ研磨がみられ、(12)の内側にはしぼりの跡がある。

(11)は脚部に方形の透しが四ヶ所に付けられている。この脚は、大野川中流域の近中遺跡、二本木遺跡や、大分平野の大在浜遺跡、雄城台遺跡等、最近出土例があいつぎ、坏部にあたる部分には、鋤先状口縁や下城式甕形土器等が付く。以上の土器はいずれも黄褐色を呈している。

(二) 後期の土器(第3図、13～20)

甕形土器(13～19)の大部分は熊本地方を中心として分布が認められている黒髪式土器に属するものである。(13～16)いずれも口縁端が上方に持ち上る。(17)は「く」の字状の口縁になり、口縁端は跳ね上り状になる。(17)は胴部に刷毛目調整がみられる。(19)も口縁が「く」の字形に外反し、内側に稜がつく。器面には雑な刷毛目調整がみられる。

鉢形土器(20)は口縁部が小さく外反し、内側に稜が生じている。

以上が石原遺跡出土の土器であるが、下城式甕形土器の混

入や黒髪式土器の出土から考えると、弥生時代中期後半から後期前半にかけての遺跡と考えられる。

三 石器

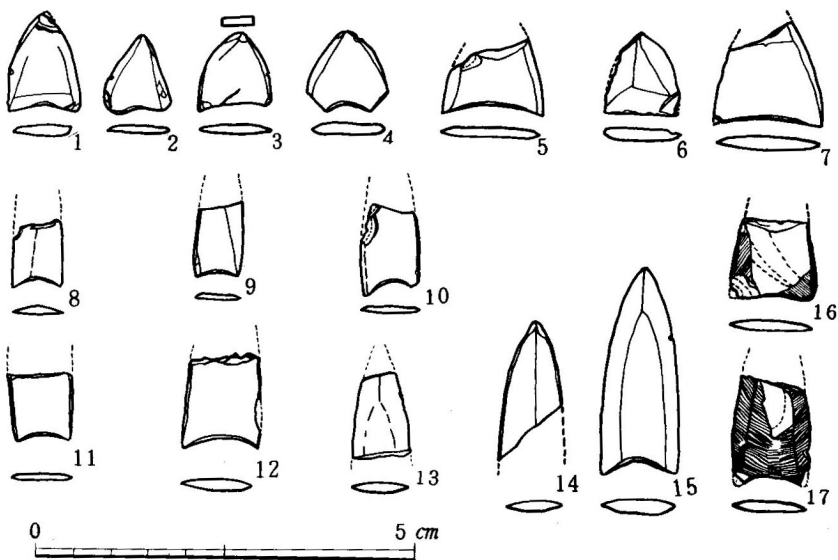
石器は石鏃、石包丁、石剣、砥石と多種にわたる。

(一) 石鏃(第4・5図)

磨製石鏃(第4図)は大きく二つに分類される。I類(17)は最大巾と長さの比率が約一対一を示し、II類(8)は最大巾と長さの比率が約一対二を示し、前者がずんぐりした形態になるのに対し、後者はスマートな形態になる。

I類はさらにバラエティに富み(3)のように先端の断面が方形になり、エッジを持たないものや(4)のように基部の両端を研磨によりカットしたものもある。また(6)は基部が鋭利となり、先端部左側のエッジが研磨され、つぶされている例もある。さらに大きさも一様でなく、(7)で最大、(2)は最小である。

II類は大きさに差はあるものの形態的には大差がなく、基部がわずかに抉入し、基部から先端にかけての両端に鋭い刃部が形成されている。(16)(17)は荒仕上げの段階であり、(16)はエ



第4図 石原遺跡出土石器実測図(1)縮尺1/2

ッジのみ研磨され、(17)は両面に荒い条痕状の研磨痕が残っている。

(二) 打製石鏃(第5図)

打製石鏃は三類に分類される。

I類(8~21)は磨製石鏃の未製品と思われ、磨製石鏃と同じ頁岩を素材にしている。

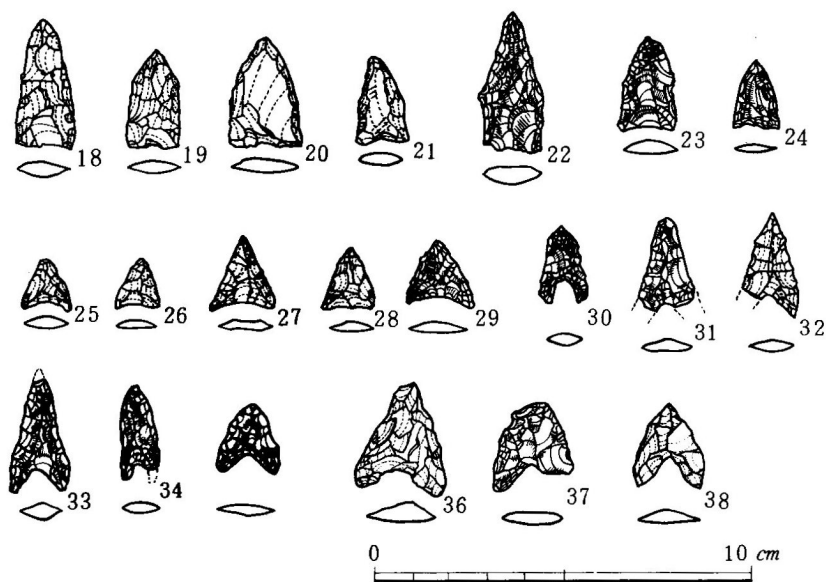
II類(22~29)は基部の抉入の小さい石鏃である。形態的に変化に富み、(22)のように、肩部が張り出しをもち、平面観が駒形になるものや、(25)~(29)のように三角形に近い形態のものもある。

III類(30~38)は基部の抉入が深く、II類と区別される。しかしIII類もII類と同様変化に富み、(33)~(34)の細いものや、(36)~(38)の粗雑なつくりのもの等がある。

以上の石鏃の石質は、多種であり、チャート・頁岩をはじめ、サヌカイト、姫島、腰岳産の黒曜石、結晶片岩等がある。

(三) 石包丁(第6図39~42)

いずれも頁岩製のもので、全て完成品と思われるが、完形品は無く、最大の破片で(40)である。(39)~(40)には両側からの穿孔があり、(41)は半月形の石包丁の可能性がある。(42)は他の器種



第5図 石原遺跡出土石器実測図(2)縮尺1/2

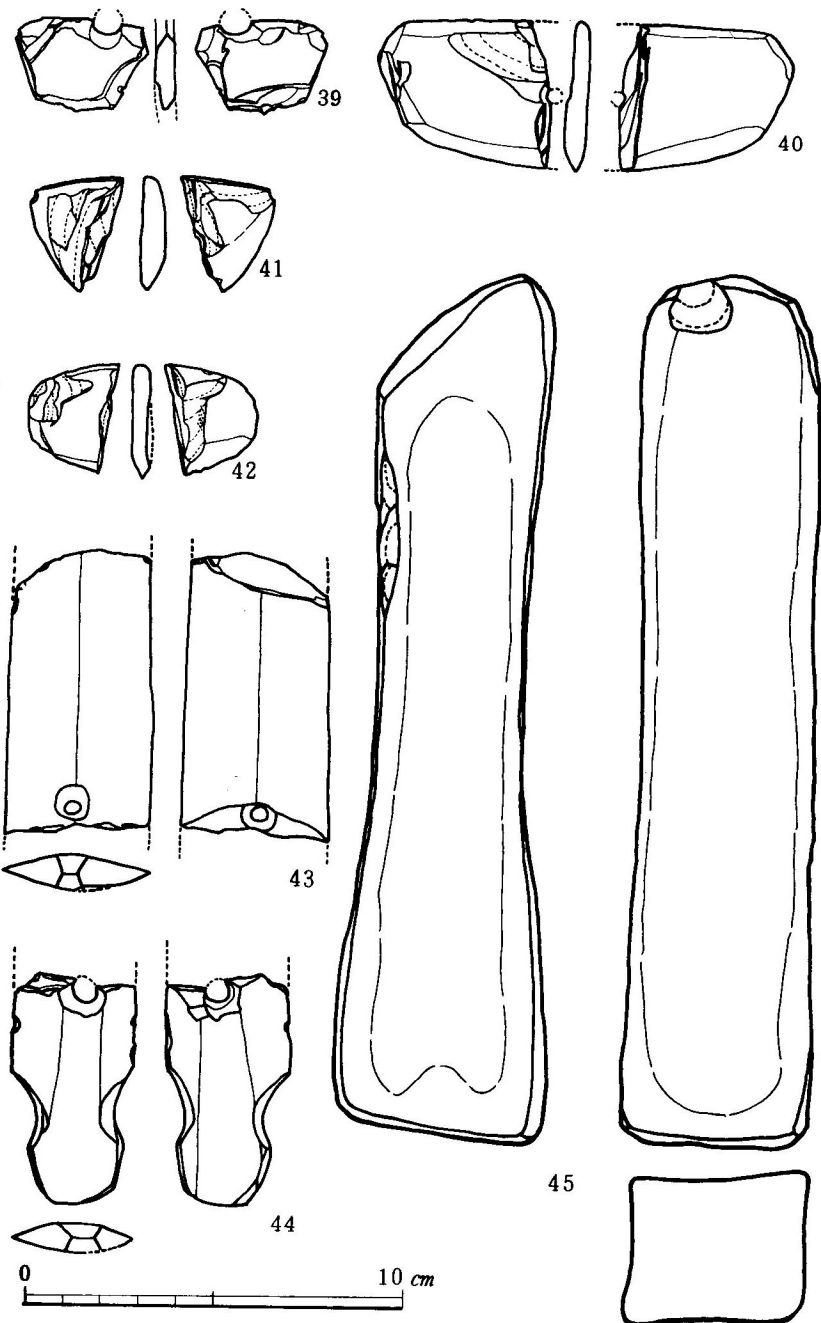
の可能性が強いが、一部に刃部と認められる部位があるため、ここでは一応石包丁として考える。

四 石剣(第6図43、44)

石剣は二個体分の採集品がある。(43)は基部に近い方に両側からの穿孔があり、中央に鑄が認められる。このため断面は偏平な菱形状になる。(44)は茎状に整形している側面の研磨の状態で他の部分の風化度が若干異なるが採集時この状態とすることであるから茎と考える。この資料も両側からの穿孔があり、この部位から折れている。断面は、穿孔部から基部にかけて二条の研磨のために生じた稜があるため、レンズ状になり、基部は、長方形状になる。二点とも頁岩製である。

五 砥石(第6図45)

砥石は完形品で大形のものである。四つの研磨面をもち、断面は、四面とも使用のため、凹んでいる。



第6図 石原遺跡出土石器実測図(3)縮尺 1/2



| 17             | 16             | 15  | 14             | 13             | 12             | 11             | 10             | 9              | 8              | 7              | 6               | 5              | 4            | 3                   | 2   | 1   | 器種名 | 石質 | 遺存状態 | 長さ<br>cm | 巾<br>cm | 厚さ<br>cm | 備考 | 分類 |
|----------------|----------------|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|----------------|--------------|---------------------|-----|-----|-----|----|------|----------|---------|----------|----|----|
| "              | "              | "   | "              | "              | "              | "              | "              | "              | "              | "              | "               | "              | "            | "                   | "   | "   | 磨製石 |    |      |          |         |          |    |    |
| "              | "              | 頁岩  | 結晶片岩           | "              | 頁岩             | "              | "              | "              | "              | "              | 結晶片岩            | 頁岩             | 結晶片岩         | "                   | "   | "   | 頁岩  |    |      |          |         |          |    |    |
| "              | 先端欠            | 完形  | 基部欠            | 先端・基部欠         | "              | "              | "              | "              | "              | 先端欠            | 完形              | 先端欠            | "            | "                   | "   | 完形  |     |    |      |          |         |          |    |    |
| 2.5 + $\alpha$ | 2.0 + $\alpha$ | 5.2 | 3.6 + $\alpha$ | 2.2 + $\alpha$ | 2.0 + $\alpha$ | 1.5 + $\alpha$ | 2.0 + $\alpha$ | 1.6 + $\alpha$ | 1.4 + $\alpha$ | 2.1 + $\alpha$ | 2.2             | 1.5 + $\alpha$ | 2.0          | 1.9                 | 1.9 | 2.4 |     |    |      |          |         |          |    |    |
| 2.0            | 2.2            | 2   | 1.6 + $\alpha$ | 1.6 + $\alpha$ | 2.0            | 1.6            | 1.5            | 1.3            | 1.4            | 2.9            | 2.0             | 2.8            | 2.2          | 1.9                 | 1.9 | 1.9 |     |    |      |          |         |          |    |    |
| 0.2            | 0.2            | 0.4 | 0.3            | 0.3            | 0.4            | 0.2            | 0.2            | 0.2            | 0.3            | 0.3            | 0.3             | 0.3            | 0.4          | 0.3                 | 0.3 | 0.4 |     |    |      |          |         |          |    |    |
| 荒い研磨の半製品       | エッジのみ研磨の半製品    |     |                |                |                |                |                |                |                |                | 先端の片方は研磨により刃つぶし |                | 基部・両端を研磨でカット | 先端のエッジがつぶされ、断面方形になる |     |     |     |    |      |          |         |          |    |    |
| "              | "              | "   | "              | "              | "              | "              | "              | "              | II             | "              | "               | "              | "            | "                   | "   | I   |     |    |      |          |         |          |    |    |

|       |     |                |                |                |      |       |     |     |     |           |       |                |        |     |              |     |     |       |
|-------|-----|----------------|----------------|----------------|------|-------|-----|-----|-----|-----------|-------|----------------|--------|-----|--------------|-----|-----|-------|
| 35    | 34  | 33             | 32             | 31             | 30   | 29    | 28  | 27  | 26  | 25        | 24    | 23             | 22     | 21  | 20           | 19  | 18  |       |
| "     | "   | "              | "              | "              | "    | "     | "   | "   | "   | "         | "     | "              | 打製石    | "   | "            | "   | 未製品 | 器種名   |
| サヌカイト | "   | 姫島黒曜石          | サヌカイト          | 姫島黒曜石          | チャート | 腰岳黒曜石 | "   | "   | "   | サヌカイト     | 腰岳黒曜石 | チャート           | 姫島黒曜石  | "   | "            | "   | 頁岩  | 石質    |
| "     | 完形  | 先端欠            | 片脚欠            | 両脚欠            | "    | "     | "   | "   | 完形  | 先端欠       | 完形    | 先端欠            | "      | "   | "            | "   | 完形  | 遺存状態  |
| 1.7   | 2.4 | 3.0 + $\alpha$ | 2.7            | 2.4 + $\alpha$ | 2.0  | 1.5   | 1.7 | 1.8 | 1.3 | 1.3       | 1.7   | 2.3 + $\alpha$ | 3.7    | 2.2 | 3.0          | 2.5 | 3.3 | 長さ cm |
| 1.7   | 1.0 | 1.6            | 1.5 + $\alpha$ | 1.4 + $\alpha$ | 1.4  | 1.8   | 1.4 | 1.8 | 1.2 | 1.4       | 1.2   | 1.4            | 1.5    | 1.2 | 1.8          | 1.3 | 1.5 | 巾 cm  |
| 0.4   | 0.4 | 0.5            | 0.3            | 0.4            | 0.3  | 0.4   | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.4       | 0.3   | 0.5            | 0.5    | 0.3 | 0.4          | 0.4 | 0.5 | 厚さ cm |
|       |     |                |                |                |      |       |     |     |     | 先端をわずかに欠損 |       |                | 駒形状の形態 |     | 磨製石 I類の未製品か? |     |     | 備考    |
| "     | "   | "              | "              | "              | III  | "     | "   | "   | "   | "         | "     | "              | II     | "   | "            | "   | I   | 分類    |

|    |     |       |        |                |                |          |             |   |    |
|----|-----|-------|--------|----------------|----------------|----------|-------------|---|----|
| 36 | 打製石 | 石     | 遺存状態   | 長さ<br>cm       | 巾<br>cm        | 厚さ<br>cm | 備           | 考 | 分類 |
|    |     | サヌカイト | 完形     | 2.7            | 2.3            | 0.5      |             |   | Ⅲ  |
| 37 | "   | 黒岳黒曜石 | 片脚・先端欠 | 2.3 + $\alpha$ | 2.3 + $\alpha$ | 0.4      |             |   | "  |
| 38 | "   | サヌカイト | "      | 2.2            | 1.8            | 0.4      |             |   | "  |
| 39 | 石包丁 | 頁岩    | 穿孔部のみ  | 2.3 + $\alpha$ | 3.4 + $\alpha$ | 0.5      | 両側から穿孔がみられる |   |    |
| 40 | "   | "     | 約半分    | 4.8            | 4.6 + $\alpha$ | 0.6      | "           |   |    |
| 41 | "   | "     | 端部のみ   | 3.1 + $\alpha$ | 2.8 + $\alpha$ | 0.6      | 石包丁か?       |   |    |
| 42 | "   | "     | "      | 2.9 + $\alpha$ | 2.2 + $\alpha$ | 0.5      | 両側から穿孔がみられる |   |    |
| 43 | 石剣  | "     | 剣身     | 7.3 + $\alpha$ | 3.8 + $\alpha$ | 1.2      |             |   |    |
| 44 | "   | "     | 柄部     | 6.0 + $\alpha$ | 3.3 + $\alpha$ | 0.9      | "           |   |    |
| 45 | 砥石  | "     | 完形     | 23.0           | 5.0            | 3.7      | 仕上げ砥石       |   |    |

#### 四 まとめ

近年、大野川上・中流域で実施されている、大規模な農地の区画整理事業に伴う発掘調査は昭和五三年八月現在、試掘調査を含めて六〇以上のもの遺跡について調査がなされている。この結果、水田耕作を想定されないこの地域ではあるが、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて爆発的に遺跡類が増加することが判明

した。石原遺跡もこうした遺跡のうちのひとつと考えられるが、土器の型式からみた場合、弥生中期後半から後期前半にかけて爆発的増加の最初の頃の遺跡である。土器は編年的位置づけの問題はあるが、西九州・東九州をそれぞれ代表する黒髪式・下城式土器があり、遺跡の立地が両者の中間点であることを裏づけている。黒髪式土器は先にも述べたが、大

野川上・中流域で実施されている調査の荻町谷尻原遺跡<sup>注10</sup>、竹田市小園遺跡<sup>注11</sup>等、上流域の阿蘇外輪山東側の裾野台地上に限り、わずかに出土している。しかし石原遺跡では甕形土器の

主体をしめる。なお、大野川中・上流域を代表する胴部を凸帯や沈線で飾る尖底状の平底になる甕形土器はみられない。

石器、特に石鏃は石原遺跡とはほぼ同時期と思われる阿蘇山西側の熊本県西原村谷頭遺跡<sup>注12</sup>と類似した傾向をもつ。報告によれば谷頭遺跡は、黒髮式土器とともに多量の磨製石鏃、石

包丁とその未製品を出土している。石鏃の形態は、本稿でⅠ類・Ⅱ類と分類したのと同様、長さと幅の比率が一对一と一对二以上の二種に分かれるようである。これに対し、大野川中流域の大野町松木遺跡の第三一号住居跡<sup>注13</sup>では、後期中頃と

時期が下るためか、また地域が異なるためか、本稿でⅠ類としたものが極端に少なく、大部分はⅡ類が占めている。石包丁は、破片ばかりであるが、40は方形の石包丁であり、下条信行氏<sup>注14</sup>によれば、この地域を含めた九州山岳地

域の特徴的な形態を呈している。この形態の石包丁は、石原遺跡の南、久住町加生島でも完形品が採集され、報告<sup>注15</sup>されている。石剣は、大分県下でも数ヶ所で出例が

あり、大野川流域でも、中流域の千歳村原遺跡<sup>注16</sup>、上流域の荻町谷尻原遺跡<sup>注17</sup>についての資料である。

磨製石器に使用されている石材は頁岩と結晶片岩が主体を占め、頁岩については灰白色のものと灰黒色のものがある。このうち、後者は谷頭遺跡でも多量に出土しており、阿蘇山周辺に原石地がもとめられる。また結晶片岩は佐賀関半島で産出することが知られている。

以上、表探という方法で得られた限られた資料を紹介したわけであるが、この地域の弥生文化についての問題は多く、その研究も始まったばかりである。この資料も、その解明に少しでも役立てば幸いである。

なお、この小稿は土器を讃岐和夫、他は坂本嘉弘が執筆した。また、この稿を草すにあたり、遺物採集者である大窪伝氏、久住町民センターの後藤是美先生の協力があつたことを、末尾ではあるが、銘記し謝意にかえたい。

註1、渡辺澄夫・佐藤満洋（「くじゅう総合学術調査報告書」Ⅱ人

文、Ⅰ歴史）昭和四三年

2、賀川光夫・後藤是美・橘昌信「コウゴ―松遺跡調査報告」久

住町教育委員会、昭和四九年

3、「湯ノ上古墳調査報告」久住町教育委員会、昭和四四年

4、現在、一口だけ、町民センターで保管している。

5、清水宗昭「大野原台地の遺跡Ⅰ」所収、大野町教育委員会、

昭和五一年

6、清水宗昭他、「二本木遺跡発掘調査概報」大野町教育委員会、

昭和五二年

7、昭和五〇・五一年度調査、現在、県文化課で整理中

8、昭和四六年から七次にわたり調査、現在県文化課で整理中

9、昭和五〇年度から主として、竹田市・大野町・荻町で調査、

それぞれ年度別の報告が出されている。

10、坂本嘉弘「荻台地の遺跡Ⅱ」所収、荻町教育委員会、昭和

五二年

11、村上久和他「菅生台地と周辺の遺跡Ⅲ」所収、竹田市教育委

員会、昭和五三年

12、松村道博「熊本県阿蘇郡西原村谷頭遺跡の調査」九州史学会

発表要旨、昭和五一年

13、牧尾義則・羽田野光洋「大野原台地の遺跡Ⅲ」所収、大野町

教育委員会、昭和五三年

14、下条信行「九州における大陸系磨製石器の生成と展開」九州

大学文学部「史淵第百十四輯」所収、昭和五二年

15、註1に同じ

16、清水宗昭「大分県大野郡千歳村出土の磨製石剣について」九

州考古学No.五三、昭和五三年

17、註10に同じ

坂本 嘉弘・

（大分県教育庁文化課）

讃岐 和夫・

（大分市教育委員会社会教育課）